

総務経済常任委員会会議記録（概要）

平成30年9月27日（木）

開 会（午前9時0分）

【議 事】

○請願第2号「高齢者の移動手段保障のため所沢市の施策を充実してください」

粕谷委員長

初めに、本日は、参考人として、請願者である八木多美代さん、坂下幸雄さんに御出席をいただいております。この際、参考人の方に一言御挨拶を申し上げます。本日は、お忙しい中にもかかわらず、本委員会のために御出席いただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して心からお礼を申し上げますとともに、忌憚のない御意見をお述べくださるようお願いいたします。さっそくですが、議事の順序等について申し上げます。初めに、参考人に10分程度で御意見を簡単に述べていただき、その後、委員の質疑にお答えいただくようお願いいたします。

【参考人意見】

八木参考人

意見陳述の機会を与えてくださりまして、本当にありがとうございます。わたくしは、全日本年金者組合所沢支部で支部長をしております八木多美代と申します。今回請願を出させていただいた趣旨について陳述をさせていただきます。私どもの年金者組合の組合員の中で、高齢化に伴い運転免許証を返納するものがふえてまいりました。交通事故を防止するため

にも、返納を可能な限り進めていきたいものと考えております。しかし、車でも自転車でもヒヤットする経験を繰り返しながら、運転を続けざるを得ないという実態が多くあります。それは、公共交通が貧困だからではないかと考えております。ところバスは、現在6コース12路線で運営・運行されておりますが、1日4便か5便、行きは時間を予定して利用できるが、帰りの便がない、延々と巡りながら走るの、なかなか目的地に着かない、バス停まで遠くて行けないなど、とても利用しにくい実態があります。民営バスでは、営業、儲けが優先されているため、西武バスが比較的頻繁に走る地域もありますが、極端に本数の少ない地域もあります。私どもは時々生活実態アンケート調査なども行っておりますが、毎回、高齢者の移動手段を充実してほしいという回答が、数多く出されます。

高齢者の移動手段保障と言いますと、まず言われるのが病院に行くため、また、食材が買いに行けないなどの問題です。でも、私たちは、それだけではなく、街に出て、社会に参加して、仲間とともに生き生きと豊かに生活したい。それができる世の中であってほしいと願っております。

所沢市の人口は減少を続けています。65歳以上の高齢者は増え続けています。6月末の高齢化率は26.3%、市は2040年には市民の3人に1人が高齢者になると推計しています。この所沢市が、私たちが年を取っても暮らしやすい街であってほしいと心から願っています。

今、未来に向かってどんな所沢市をつくっていくのが問われています。今、明確な方向を確立して、計画的に取り組んでいかなければ、この所沢

市が暮らしにくい街になっていってしまうのではないかと心配しております。

今回の請願では、3つの項目について示させていただきました。来年度からすぐに実現することは難しい項目も中にはあるのかもしれませんが、議会の意思として、所沢市の施策として高齢者の移動手段を充実させていく姿勢を鮮明にさせていただきまして、具体的な改善につなげていただきたいものと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

坂下参考人

私は、年寄りの代表として、この場に来させていただいたわけですが、今、お話がありましたように、年をとって病院に通う、あるいは、老人クラブが集まる施設に行きたいということでも、なかなか、ところバスは利用しにくいということで、なんとか回数をふやしていただけないものかという1点でお願いしたいと思っています。

私ども年寄りも、病院通いが主な利用となっていますので、なんとか病院に行って、帰りは2時間ぐらい待たなければ帰れないということで、ところバスをせっかく運行していただいても、利用しづらいということがありますので、例えば、東西南北を一度にぐるっと回るのではなく、月に2回くらい、南と北を集中的に回っていただくわけにはいかないでしょうか。後の2つは月末に集中的に回っていただくといった、運行を組んでいただければ、柳瀬地区や松井地区は月の前半で1時間前後で運行し、三ヶ島地区などは次の週に集中的に運行していただくという工夫ができない

ものかと思しますので、検討していただければと思っています。いずれにいたしましても、病院通い、会合に参加するために、もう少し便利にならないか。不便だから乗らない、乗らないから回数もふえないということだと思うので、我々の意見や他の団体の意見も聞いていただきながら、検討していただければありがたいと思ってお願いいたしました。

【参考人意見終了】

粕谷委員長

ありがとうございました。以上で、参考人からの御意見の開陳は終わりました。次に質疑を許します。なお、念のため申し上げますが、参考人は委員長の許可を得て発言されるようお願いいたします。また、参考人は、委員に対して質疑することはできないことになっておりますので、御了承願います。

【参考人への質疑】

近藤委員

年寄りの代表というお言葉でしたが、代表とはどういうことなのか。例えば、長生クラブの会長やっぺらっぺらとか、そういう代表なのか。また、代表であれば、皆さんの意見をまとめてこられたのか。それとも年寄りの代表として来られているのか、お伺いします。

坂下参考人

所沢市長生クラブ連合会会長として、この場に出席させていただいておりますが、この請願について、連合会として検討して総意をもってということではありません。八木参考人の団体から請願をしたい旨の御意見がありましたので、私は代表として、本数をふやしていただくことについて、

長生クラブの会員の意見を聞いておりましたので、ふやしていただくことはよいことだということで、請願をしたものです。

近藤委員

長生クラブの代表ではあるが、長生クラブ全体の意見として、今日はお見えにはなっていない。中でも意見がバラバラだけれども、統一された意見で今回は来ていない。全日本年金者組合所沢支部の八木参考人からの要望があったので、長生クラブの意見をまとめたわけではないけれども、会員の中では意見があったと。

坂下参考人

役員の中では話はしておりますが、会員全員の徹底した総意ではありません。

城下委員

高齢者の移動手段ということについては、高齢者のみならず、障害者とかいろいろな公共交通の充実を求める、公共交通、西武バスやところバスの本数をふやしてほしいという市民からの声が大変寄せられているのですが、今のお話の長生クラブの総意ではないけれども、長生クラブの中では便数をふやしてほしいとかといった声は多いのか。会員の皆さんの要求としては強い要求ということで理解してよいか。

坂下参考人

特にところバスについては、利用がしづらいということは、常に我々の中でも話は承知しています。このことについては間違いなく、便数をふや

していただきたいことは我々の総意として受け取っていただいてよいと思います。

村上委員

現在のところバスについては、そもそも所沢市議会に請願が出され、高齢者並びに障害者の移動手段として、目的としては病院や公民館等の公共施設に移動する必要があることから、なんとかところバスをつくってほしいといった請願のもとで現在のところバスがあるということについては御理解いただいているか。

坂下参考人

十分承知しています。

村上委員

もともと、ところバスの目的が利便性を追求しているというよりは、各地域の交通不便地域、公共のバスなどの公共交通が通っていないところでそういったところの高齢者や障害者の方たちが病院に行く、あるいは、公民館に行く、コミュニティセンターに行くだとか、といった意味での利便性を高めていく移動手段を確保していくということで、コースもつくっているんで、今、請願者のお二人が言っていることの一つは、八木参考人については病院とか、買い物だとかもそうだけれども、もっと街に出ていきたいとなると趣旨自体が少し変わってくると思うが、その認識でよいか。

坂下参考人

両方あるのが一番よいのだが、街に行きたいというよりも、むしろ病院

に行きたい、誕生会を行うとか、公共施設に行くために利用したいのです。街に出るといよりも、病院の行き帰りがスムーズにできるようにしていただきたいという希望が強いです。

八木参考人

もちろん、それもありますけれども、病院の行き帰りだけだと、各病院から送迎バスも出ておりますし、それよりも、今、高齢者の独り暮らしがふえてきましたし、引きこもりになりがちというのが多いです。それをとにかくやめたい。みんなで元気に死ぬまで暮らしたいと。それが一番の希望です。

村上委員

所沢市議会でも、政策討論会をやって、まず、現在のところバスがいわゆる公共交通になっているかどうかという話が大きいと思う。どちらかというと、高齢者や障害者のための福祉バスのような運営が大変強く、そこを高齢者の側からすると、病院に行きたい、そういった会合に行きたいという意味での改善をしようという話と、そうではなくて、いわゆる高齢者・障害者が、もっと街中に出て行って、生きがいのある人生を過ごしていきたい、引きこもりをなくしていきたい、そのための公共交通という請願の趣旨とすると、同じ方向性を向いていないような気がしている。実は私も一般質問の中で、ところバスはそういった背景、請願のもとにやってきていて、いわゆる交通不便地域というのを中心に回っていると。地域によっては大変混んでいて利用者が多いところもあるし、全然乗っていない

ところもある。そういったことを考えたときに、公共交通ということを考えて場合には、そもそも、福祉バスの話ではなく、もっと利便性を重視した公共交通に近づけていくという抜本的な見直しが必要ではないかということ質問したことがあるのだが、このことについてのお考えは何かか。

八木参考人

利便性はもちろん、心から要求しているのですけれども、私が言っているのは、坂下参考人がおっしゃる病院、あるいは食材を買いに行くとか、それにプラスです。やはり仲間とともに生き生きとか、もう少しところバスが頻繁に使えるとか、あるいは、請願の中にもありましたが、デマンドタクシーの利用であるとか、それから、比較がよくないでしょうけれども、東京都民は非常に優遇されています。パスポートでバスなどのいろんな交通手段が使えるとか、そこまでは要望していませんが、それに近いことができたらどんなに生活が変わるのではないかなと思います。

村上委員

東京はいろいろなバス会社があつて、公共交通が非常に完備をしていて、そこに対してどういう手段で、どういうチョイスをして、より安く、より便利に行けるかということが都民の側が選べるということがある。所沢の場合は選べない。既存のところバスだけしかないし、民間は西武バスしかない。西武バスは幹線道路しか通っていないということで、そういった意味で所沢市議会もいわゆる公共交通というものをしっかりとこれか

ら先の高齢化社会に向けて検討すべきだということは、議会としても言っ
てきていて、そのために交通政策室というものをつくって、もっと抜本的
な改革を検討しなければならないということで、これは交通政策室といっ
た組織をつくれと言ったのは我々公明党の議員が提案してやってきたこ
とだが、そういう大きな意味でおっしゃっているような方向性に、具体的
に執行部も、議会もさまざまいろんなところに視察に行っ、どうするの
かと一生懸命研究している段階だけれども、そこは御理解いただけるか。

八木参考人

いろいろと見聞きはしております。

城下委員

それぞれの議員の一般質問でも、公共交通、特にところバスやデマンド
バスの充実も提案しているし、私たちの委員会としても、いろいろなとこ
ろを視察にも行って、なんとかよい方向で持っていきたいという取り組み
はしている。先ほど、坂下参考人からとにかく高齢者の集会とか、もっと
積極的に地域に出ていきたいということでは、このところバスが誕生した
背景というのは、やっぱり、高齢者も含めて引きこもりの高齢者をなくし
ていくと、みんなで地域に出ていくというのも、一つの目的であったわけ
である。だから、全体としては、そういう流れにはなってきているので、
今回、3つ要旨を出されているけれども、こういったことも含めて、私た
ち議会もバックアップをしてもらいたいという趣旨の請願という理解で
よいか。

八木参考人

はい。

末吉委員

ところバスに関しては、交通不便地域を中心にということで、各11行政
政区の中で非常にところバスに頼っている地域とあまり使っていない地
域があつて、各行政区において必要とする切実度がかなり違うと思うが、
どう思われるか。

坂下参考人

場所によって、利用する回数が違うと思います。私は西新井町ですから
乗らなくても、歩いてどこでも行けるというのがありますし、三ヶ島、山
口、柳瀬あたりは利用しなければ、不便で自分で歩いては行けないという
場所があるのです。東西南北を一緒にやらない、そういうところについて
集中的に回数をふやしていただいたほうがよいと思います。柳瀬と吾妻と
富岡が日に4回しかなく、あとは5回となっています。場所によって必要
とする度合いが違うのではないかと思います。ぐるぐるやらずに、集中的
にやっていただいたほうがよいと思います。利用する人の意見を聞いてい
ただいて決めることになると思いますが、濃淡と言いますか、それをやっ
ていただいたほうがよいと思っています。

末吉委員

先ほど、病院に行くことや買い物に行くこと、それとともに社会との交
流を絶たない、出かけていくということで、そこを確保していきたいのだ

という話があったが、ところバスの必要性ということとともに、デマンドタクシーであるとか、さまざまな政策の組み合わせで目的が達成できれば、全体としてはそれでよいということで大丈夫か。ところバスさえふえればうまくというよりは、さまざまな政策の中でお二人がおっしゃった目的を達成するために何がしていけるかを考えることが私たちの役割だと思うのだけれども、それでよろしいか。

八木参考人

請願の3項目を出しておりますけれども、ところバスだけに頼っても不十分なところがあると思いますので、2つ目、3つ目の西武バスに対してそのような手段ができないかとか、デマンドタクシーの3つを組み合わせでよい交通手段が獲得できないかなど。

末吉委員

交通政策に関しては、私たちもいろいろなところに委員会として視察に行ったりしているけれども、さまざまな総合的な政策を組み合わせ、この3つ以外はないということではなく、さまざまな政策を研究しつつ、目的が達成できるように頑張っていくということで大丈夫か。

八木参考人

お願いしたいと思います。

中委員

確認ですが、1番、2番、3番が要旨の中に載っていて、1番がところバスの利便性を高めていただきたい、2番が特別乗車証をつけていただき

たい、3番がデマンドタクシーの新設をしていただきたいと具体的に出されて、この3つの方法だけを組み合わせるのか、他にもいろいろな方法を我々も見ているので、他のこともあったりとか、また、自転車を使われる方々の街を移動することも含めて考えていくことも大事なことだと思っている。そういったことも含めた中での話ということによろしいのか。この3つに限定をして、集中してこれをやってほしいという請願の意味なのか。そこの確認だけさせていただきたい。

八木参考人

とりあえずは、3つを。挙げていけば10、20となるかもしれませんが、とりあえず、せっぱ詰っているのが1、2、3です。

中委員

先ほど、八木参考人が言われた計画的に議会の意思を示していただきたいとなった場合に、この計画的に意思を示すということはこの3つを挙げてしまうと、この3つを必ずやってほしい、他はいらないというような話にも受けとめやすくなってしまふ可能性もあるので、そのあたりでよろしいかとお聞きしている。坂下参考人は、増便の1点で来ておりますというような話もあったので、それも一つ理解ができるけれども、今所沢市の中で総合的にもう少し考えていったほうが、将来的にはよいのではないかとこの考えがあるのだけれども、そうすると、具体的なものが入ってくるのがよいのか、私には迷いがある。ここにこだわりがありますか、ということを確認させていただきたい。

坂下参考人

私は、総合的にやっていただければ一番よいと思うのですが、それはなかなか難しいと思います。今のところバスを運営するだけでも、大変な予算を必要としていると思います。したがって、老人クラブから見れば、自分の一番行きたいところに集中的にところバスを利用させていただきたいと、この1点だけだと言ったのはそういう意味でして、総合的にやっていただければ、西武バスともう少し連携してやるというものもあると思うのですが、しかしそれはなかなか難しいという面があるから、ところバスはところバスとして運営をしていただいていると思います。現在の運行の内容を見ると、行くべきところは全部停留所があるんですよね。ですから、これ以上の要求は無理だと思っています。しかし、そこに行きたいのも一つですよね。一遍にやらないで、全体で無理があると思うから、ふやすということであれば、集中的な運行となれば、施設の利用や行事が運行に合わせた計画が立てられるのではないかと考えて、1点だと申し上げたわけです。

村上委員

ところバスの運行自体、かなり課題があることは議会も理解している。ただ、これは国土交通省の承認を得て運行しているバスなので、その都度、いろいろなことを勝手にできないというのがある。だから、議会も悩む。ところバスの利便性をあげるといった時に、その増便なのか、坂下参考人のおっしゃったように、集中して、他のところは違う方法でやるのか、い

ろいろなさまざまな議論があつて、議会もいろいろなことをやっている最中であり、行政側もいろいろな検討をしていて、デマンドもその一つではあるが、まだデマンドと決まったわけでもない。ここを絞れば絞るほど、我々、この委員会として、請願を審査するのが難しくなるということ、御理解いただけるとよいと思う。集中して、ここの利便性をもっと上げて、するとこっちの利便性は下がることになり、今度はこっちの人たちが、何で減らすのだ、という話になるし、そこはやはり、総合的というのは全体的にそういったことを検討していかないと、ところバスの事業をどうするかだけではなく、公共交通としてどうやって位置づけていくかという話になると、これは総合的にというよりも、もっと大きな意味で議論をしていかないと、前に進まないという印象を私は持っている。大きな課題だと思っている。そうすると、件名の部分で、高齢者の移動手段の施策を進めてもらいたい、ということについては、そのとおりだ、と判断するけれど、具体的なところまで審査に入ってくると、我々の判断の首が絞まっていってしまうという感じがする。先ほど末吉委員が言ったように、総合的なことという意味合いでよろしいかどうかというのは、これから審査する上で大変意味がある質疑になると思うが、もう一回、そのあたりはいかがか。

八木参考人

総合的に考えて解決して行ってほしいと思います。

坂下参考人

総合的に考えていただくのが一番よいことだと思います。利用しやすくなれば、利用する人も多くなるでしょうから、だけど、今運行している状況からみると、限界ではないかと思います。ところバスの運営そのものが。それをいかにして、総合的な意味をもたすかということについては、一番よいのは、回数をふやすことですよね。それには予算が、バス1台ふやして、運転手をふやすということになると思います。それは相当な予算が必要だと思うので、今ある方法がこれで一番よいのかどうかということ、もう一度、議員に考えていただく余地はないのかと、私は思っております。一番よいのは予算をふやしていただいて、バスと運転手をふやすということになると思います。

杉田委員

坂下参考人が言っている部分も、ある意味、ところバスを増便することによって、今の要望している部分が達成できるということでもない気がしている。デマンドタクシーの方法というようなことがされた方が、近いような内容があったと思う。目的地に行くために、交通手段がほしいということだから。ところバスをふやすことが近づくよりも、もう少し違う方法をした方が、近づくということがあると思う。そういった意味では、他の委員からも出ているが、この要旨の部分の3つの具体的な要望、これを、これだけをやってくれ、というのではなくて、高齢者の移動手段が現在よりも充実してほしいと、自分たちがもっとあちこちへ行きやすくしてほしいと、それが今回の要望なのだと、それが私の思う、総合的に充実させて

ください、という考え方であるか、確認したい。

坂下参考人

確かに私が言っているのは少しはずれていて年金者組合団体の方には申し訳ないかも知れませんが、この3つの中にはないかもしれません。私が申し上げていることは。しかしながら、高齢者としての、ところバスに要望するのは、今のようにふやしていただいて、ということになります。

杉田委員

団体の会員数はどれぐらいか。

八木参考人

所沢支部は約440名です。

坂下参考人

約4,500名です。

杉田委員

坂下参考人は、総意は確認していないと言われたが、役員の中ではよく出ている話だと、そういうことだったと思う。八木参考人の団体としては、皆さんの意見だということなのか。きちんと確認していないまでも、そういう意見が大半だという考え方で来ているということによろしいのか。

坂下参考人

ところバスに対する要望だけに限って言えば、諮ってはおりませんけれども、全員賛成を得られるとっております。

八木参考人

生活実態アンケートを時折やっているのですが、そこに高齢者の移動手段を充実してほしいという要望がとても多いです。徹底するというについては、役員会、執行委員会というのは常時やっておりますし、支部大会というものがあまして、今年はこのことを頑張っていきたいと思いますというような意思統一も皆さんとやっております。支部大会に全員は来られませんので、支部のニュースというものがあまして、そこで皆さんに周知徹底しております。

亀山委員

件名の部分、高齢者の移動手段保障のため所沢市の施策を充実してくださいというのはとても必要な、重要なことだと思っている。その上で、先ほどから他の委員も言っているけれど、要旨が3つ出ていて、具体的に書かれているということで、先ほど挙げればもっとたくさんあるということなので、提案としては、いくつかある内の、とりあえず、挙げたということで、本当はもっとあるという理解でよろしいのか。まずは確認させていただきたい。

八木参考人

交通手段に関しては、3つに絞っております。

亀山委員

確認したいのは、どうしてもその3つにこだわりたいか、ということである。実は、私たちの会派もよく交通手段ということでさまざまな自治体へ視察に行っており、つい先日も水戸市へデマンドタクシーの視察に行っ

た。私を感じるのところでは、1つの市の中でさまざまな課題がある地域があつて、その課題のある地域に対してどういう風にしたらよいか、そして市としてどうするか、という地域毎の施策も含めながら全体としてどうするか、というような意味合いが多かった、参考にしたところは。ということで、本当は施策として、これだけを、と並べていくよりは、全体を考えながら、先ほど皆さんが何度も総合的に、という言い方をされていたのは、そういうことだと思う。いろいろな手法があると。それを1つに組み合わせ、なんとか高齢者のために施策をしていく、それならば、皆さんもきっと、理解がしやすいということがあると思う。どうしてもこの3つに絞っていくとなると、私は、この3つでよいのかな、とかえって思ってしまうところもある。まずは、というところなのか、気持ちはわかるのだけでも、できたら、総合的ということだと、理解がしやすい。もう一度確認したい。

八木参考人

総合的という言葉はよいと思いますので、3つを含めた、これだけにこだわらない、総合的なというところをお願いしたいと思います。

坂下参考人

あえて言えば、総合的にやっていただければ一番よいことだと思います。

村上委員

批判を恐れずに言うと、今のところバスは、非常に課題があると認識し

ている。交通不便地域の不採算地域というものがあって、例えば、いろいろなさまざまな施策を組み合わせさせていって、所沢市の公共交通というものを実現しようといったときに、ここはもう廃止します、このルートは廃止します、そのかわりこういったことをやっていきます、といったときに、その廃止するということについて、また今度は、それ駄目だ、ということも考えられる。そこは、我々議会としても悩ましいところで、この公共交通というこれから先、どうするかといった場合には、さまざまなことを検討しなければいけない。例えば、西武バスと同じようなところを通っているところバスは、そこは西武バスにお願いしようとか、だからこっちのところバスでやる、とか。逆に、ここはところバスがあるのだから、西武バスは退いてくださいよ、ということもどうしてもあるだろう。あるいは、こういったことを全て、委託か何かで西武バスにやってもらって、もっと利便性をあげるとか、さまざま考えなければいけない話である。そういうことも含めて、早くやりなさいよ、というのは我々も言いたい。けれど、こう限定されていくとなると、そこに集中されても、我々は逆に困ってしまう、我々というか、議員とすれば、困ってしまうという意味もある。先ほど言った、ところバスの請願の趣旨で今のところバスは動いているが、そもそもの請願の趣旨とは一旦おいて、公共交通の中の1つのところバスという位置づけも必要であるということも提案させてもらっているし、そういう意味で、その流れの中でところバスを増便してほしいとか、利便性をあげてほしいとか、私からすると、逆の、もう少し大きな議論を行政

側には求めたいと思っているのだけれど、ここが出てくると、逆の方向の議論になってしまうと、個人的には思ってしまう。先ほど言った、総合的にという、例えば、要旨ではなく、例えばこの3つ、という、そういう風な形でしてくれると、我々も、こういう風に来ているのだから、もっと加速度を増して行政、しっかりやってくれよ、と言いたい。そこは一致できると思う。この3つが要旨ですよ、とりあえず、となっているのだが、ここを中心に今後検討してくださいとなると、我々も審査する段階でなかなか前に進めないという、そのあたりはどうなのか。

坂下参考人

こちらのこだわりはないと思います。3つを中心的にやってくれということではなく、今おっしゃった、総合的な運営の中で、この3つは特にお願いをしているというもので、全体的には総合的にやっていただければ、よいことだと思います。しかし、なかなか時間がかかるのではないのでしょうか。私どもは年をとっているから、早くやっていただかないと。

近藤委員

私どもは、という言葉を利用している。私どもは、というのは年金者組合440名、長生クラブ4,500名の方々だと、私は理解するのだけれど、まだまだ高齢者というのはいっぱいいらっしゃるわけである。だから、この、私どもというのは、限定をしていく言葉であるように感じてしまう。そのあたりはどのようなものであるか。

八木参考人

ここに使っている私どもというのは、年金者組合のことですけれども、それだけに限らず、今おっしゃっていただいたように、高齢者はいっぱいおりますので、そういう人たちと日常的に会話をする中で、こういう話は出てくるので、年金者組合に限った私どもではありません。

近藤委員

所沢市の高齢者の全てを含めた表現をしていらっしゃるということか。

八木参考人

全てを指して私どもとしております。

【参考人への質疑終結】

粕谷委員長

この際、参考人に対し、委員会を代表して一言お礼を申し上げます。本日は、お忙しい中を本委員会のために御出席いただき、貴重な意見を述べていただき、心から感謝いたします。本委員会としましては、御意見を今後の委員会審査に十分生かしてまいりたいと思います。本日は、誠にありがとうございました。

(参考人退室)

休 憩 (午前9時52分)

再 開 (午前10時0分)

【質 疑】

粕谷委員

質疑の中で、状況等がわかってきた。執行部から現状や今後の方向性について話があれば、お伺いしたい。

平田 経営企画
部長

現在、経営企画部の方で、先ほどの総合的に取り組むということでお話の中でもありましたが、今、ところバスを含めての地域公共交通のあり方については、検討させていただいているところです。その中で、既に幾つか具体的なもの、方向性などは地域公共交通会議の中でも委員の皆さまに御紹介させていただき、他市での取り組みなども御紹介させていただいております。本市において、やはり先ほどの請願者の方々からのお話がありましたとおり、現在のところバスの利用のしづらさ、そういったところについては、既に認識しております。ただ、今のところバスは、実際には高齢者の方や障害者の方、そういった方々が公共施設や駅、拠点となるところをできるだけ回るようにという要望の中で、だんだん路線が長くなってしまったということが、現実にあったようです。そんなところも、もし、抜本的に見直すことができれば、所沢市の場合は、多くの駅があるということで恵まれた都市でもありますので、駅を中心に少し路線網をまとめていくような形で地域の方から駅の方へ向かうような方向で、今はかなり広い地域を回っていますけれども、それを少しコンパクトに、エリア毎に、駅を中心に一日に何回も回るようなコース取りはできないか等、考えております。ただ、そうすると、今まで公共施設の方をずっと回っていたものが、なかなかクリアできないということにもなりますので、このあたりの実際の地域の要望については、特に交通不便地域と言われている中で、三ヶ島地区、柳瀬地区、富岡地区という、時々、地区名が出てきます

が、そのあたりに、実際にどんな状況なのかというのを、今年度、既に担当者が回らせていただいております、地域の実情などを伺うような形で動き始めております。そういったお声を聞きながら、実際に全ての公共施設を回らなくてもよいのだということであれば、それはそれで、少し近い地域を回るとか、そういった工夫もあるのかと思います。路線取りについては住民の方々の要望に近い形でできないかと、まずはところバスについては考えております。

また、地区によっては、ところバスでは補完できない地域ももしかしたらあるかもしれません。先ほどのお話にありました病院や買い物といったところを含めた、ところバスの路線では補うことができない部分に、何か別の方法がないのか、それは地域公共交通会議の中でも路線バスを扱っている西武バス株式会社、タクシーといった各業界の方々も参加いただいておりますので、タクシー業界などとも、個別にお話をさせていただいて、実際にどんなことができるのか、その場合にかかる費用はどれぐらいなのか、手続的にいろいろな許認可が必要なのか、ということについても、タクシーやバス業界の皆さまにも、具体的なところをお聞きしている状況です。少しずつ具体化した形で、お話ができる段階になれば、地域公共交通会議を含めて、こちらからもお話をさせていただけると思っております。そのような状況で、今は取り組んでおります。

また、時期的なことで、できるだけ早くと、先ほどお話の中でありましたけれども、できるだけ早くということでは、努めてまいります。長いス

パンで考えているものではございません。できるだけ早い時期に、もしかしたらモデル地区ということで始まるかもしれませんが、ぜひ、そういう形で進めたいと考えております。

【質疑終結】

休 憩 （午前10時5分）

（休憩中に協議会を開催する。）

再 開 （午前11時8分）

【意 見】

末吉委員

請願第2号の審査に当たっては、請願者2名の方に御意見を伺いました。現在、高齢化が進む所沢市の中で、病院、買い物、社会参加等、移動手段を充実してほしいという切実な声を受けとめさせていただきました。総務経済常任委員会としても、この間、公共交通政策に関しては、特定事件等を通して取り組んできたことでもあり、この問題意識を共有してきたところであります。また、市としても地域性を含め、多様な公共交通政策を検討しているとの説明もありました。請願の中で、例として、3点の要旨があげられていますが、この点も含め、総合的な公共交通政策を進めていただくことをお願いして、採択を主張いたします。

【意見終結】

【採 決】

請願第2号については、全会一致、採択すべきものと決する。

○閉会中の継続審査申出の件について（特定事件）

閉会中の継続審査申出の件については、別紙のとおり申し出ることとした。

散 会（午前11時10分）

特定事件 常任委員会閉会中継続審査申出表

平成30年第3回（9月）定例会

総務経済常任委員会

- 1 国際社会（平和推進事業）について
- 2 人権尊重社会について
- 3 男女共同参画社会について
- 4 交通（交通政策）について
- 5 学校教育（私立学校）について
- 6 情報の共有と市民参加について（広報・市民参加）
- 7 行政経営について
- 8 危機管理・防災について
- 9 防犯について
- 10 財政運営について
- 11 農業・商業・工業について
- 12 観光について
- 13 労働・雇用環境について